

# 資料1

## 1. はじめに

石巻市の震災施設伝承保全事業は、「石巻市震災復興基本計画」における重点プロジェクトの一つである『未来への伝承プロジェクト』（津波の恐ろしさを市民、そして訪れる多くの人に伝承していくため、震災記念碑やメモリアパーク等を整備するとともに、震災施設の伝承保存や震災体験を伝える仕組みを構築する）において、「震災の記憶」、「後世への伝承」、「犠牲者の追悼」を主要テーマとして、市が主体となって行う事業として位置付けられています。

「石巻市震災伝承検討委員会」（以下、「検討委員会」という）は、震災による傷跡、震災を通じ得られた教訓を風化させることなく後世に伝えるため、震災の記憶として残すべき被災建築物の存置・保存について市民の意向を踏まえながら記憶伝承の手法や震災遺構候補の中から震災遺構の選定及び保存方法を提言するため、設置されたものです。これまで、1年の間に6回にわたり検討委員会を開催し、記憶伝承の手法や震災遺構候補の中から震災遺構の選定及び保存方法等についての協議結果を検討委員会からの提言として以下に示します。

## 2. 提言

### （1）震災記録について

- ・ 後世に震災を通じ得られた教訓を伝えるため、震災に関連する様々な記録を収集すること。
- ・ 収集した情報のアーカイブ化を進め、今後の防災・減災対策や防災教育に活用すること。
- ・ 行政文書は震災直後に各自自治体がどのように動いたかがわかる貴重な資料となるため、行政文書を収集・保存すること。

### （2）震災遺構について

- ・ 津波被害の痕跡を残す施設が少なくなっているが、旧門脇小学校は、その津波被害の痕跡のみならず、東日本大震災でクローズアップされた津波火災の痕跡も残している唯一の施設であり、さらに避難にも成功した場所である。被害の状況や、防災、減災を後世に伝える重要な施設であることから震災遺構として保存・活用すること。
- ・ その他の震災遺構の候補については、進行している整備計画を考慮すると、現状のまま遺構として残すことは難しいが、整備を実施するにあたり、遺構性を維持し、次世代に残すようなデザインとなるよう事前に検討すること。
- ・ 被災住民にとってより強く震災当時の記憶を呼び起こすものでもあるため、周辺住民の感情を十分に考慮すること。

### （3）震災伝承について

- ・ 震災記録については、被災した状況に加え、復興の進捗状況や市民活動などについ

て、石巻市だけでなく、周辺市町とも連携しながら、記録・情報を収集し、情報を発信・共有すること。

- ・ 震災遺構については、写真や映像では体感することができない被災の規模を伝えるだけでなく、防災・減災対策に対する意識醸成、防災教育の効果的な素材として活用すること。
- ・ 街中等を含め、どこまで津波が到達したか分かるようなサインや標識を設け、街中等でも津波の被害や教訓を感じられるような取り組みを行うこと。

### 3. 付帯意見

#### (1) 旧門脇小学校の保存部分について

現状の規模をそのまま遺構として保存し、維持していくことは初期費用、維持費等がかさむため、周辺住民の意向を考慮すると一部解体し、規模をある程度縮小することが望ましいと考えます。しかし、旧門脇小学校の特徴である震災・津波・火災の3つの被災状況や被災時の避難経路などが分かるよう保存箇所を検討する必要があります。

#### (2) ガイダンス施設の必要性

旧門脇小学校はただ残すだけでなく、ガイダンス施設を併せて整備し、見学者に被災時の状況や被災の大きさ、避難経路などを見学者に分かりやすく鮮明に伝える必要があります。

#### (3) 学校内の思い出の品の保存

旧門脇小学校の校舎内や体育館にある卒業生の共同制作等は、被災時のままとなっています。これらのものについても保存する方向で、今後、教育委員会と検討する必要があります。

#### (4) 周辺住民への配慮

旧門脇小学校の遺構性を考慮すると、被災住民にとってより強く震災当時の記憶を呼び起こすものとなります。住民の意向でも、被災した旧門脇小学校を見るのが辛いという意見もあることから、目隠しをするなどの周辺住民への配慮を最大限検討していく必要があると考えます。

#### (5) グラウンドの活用

旧門脇小学校の校舎前にあるグラウンドについては、地域のまちづくりに役立てる施設や遺構施設利用者の駐車場等を整備していくなどの活用方法を検討する必要があります。

また、活用方法を検討する際は、復興祈念公園との連携を踏まえて検討していく必要があると考えます。